

2023、2024年度の生乳及び牛乳乳製品 の需給見通しと課題について

2024年1月26日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- (1) 北海道及び都府県の予測値は、2023 年 11 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
なお、2024 年度の気温は、「猛暑」で設定。
- (2) 要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。
- (3) 酪農経営改善緊急支援事業（経産牛早期リタイア事業）の効果については、考慮していない（2023 年 11 月までは実績として反映）。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2023 年 11 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 POS データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2024 年度の気温は、「猛暑」で設定。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- (1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- (2) 自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- (3) 飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- (1) 脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- (2) 脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2023 年 11 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳や代替乳製品の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。
- (3) 脱脂粉乳・バターの在庫月数は、今年度予測の 1 ヶ月平均出回り量を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測 (P15の説明)

- (1)「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- (2)「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

(1) 乳製品向生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定の影響について

本見通しでは、2023年12月からの乳製品向生乳取引価格引き上げによる需要の減少について、業務用を中心とした乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲食料全体に対する生クリーム、バターそれぞれの相対価格指数を算出し、価格が5%改定したときの需要量を予測。よって、需要が減少すると予測しているカテゴリは、用途別処理量のうち生クリーム等向(P10~12)、バター需給のうち推定出回り量(P14)とした。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品(財)の価格を継続的に調査し、現時点の価格を、基準時点(2020年)の価格を100として指数化したもの。企業間で取引される商品の価格を指数化した物価指数のこと。

※参考 価格改定率

	価格改定率(12月～)
牛乳	—
加工乳	—
成分調整牛乳	—
乳飲料	—
はっ酵乳	—
チーズ向	—
生クリーム等向	+5%
脱脂粉乳(出回り)	—
バター(出回り)	+5%

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2023年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績 白色：見通し）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	628	95.6%	349	95.9%	279	95.2%
5月	649	95.6%	366	96.6%	282	94.5%
6月	619	96.3%	356	97.8%	263	94.3%
7月	616	95.5%	359	96.4%	258	94.3%
8月	590	94.1%	343	94.2%	247	94.1%
9月	573	94.6%	332	95.3%	241	93.6%
10月	598	96.1%	342	96.9%	255	95.1%
11月	579	97.0%	330	98.1%	249	95.5%
12月	606	97.5%	344	98.5%	262	96.3%
1月	620	99.4%	352	100.6%	268	97.8%
2月	591	103.6%	333	104.9%	258	102.0%
3月	642	100.1%	359	101.1%	283	98.8%
第1四半期	1,896	95.8%	1,071	96.8%	825	94.7%
第2四半期	1,780	94.7%	1,034	95.3%	746	94.0%
第3四半期	1,783	96.9%	1,017	97.8%	766	95.7%
第4四半期	1,853	100.9%	1,044	102.1%	809	99.4%
上期	3,676	95.3%	2,105	96.0%	1,571	94.3%
下期	3,635	98.9%	2,061	100.0%	1,574	97.6%
年度計	7,311	97.1%	4,166	97.9%	3,145	95.9%

表1-2：2024年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績 白色：見通し）

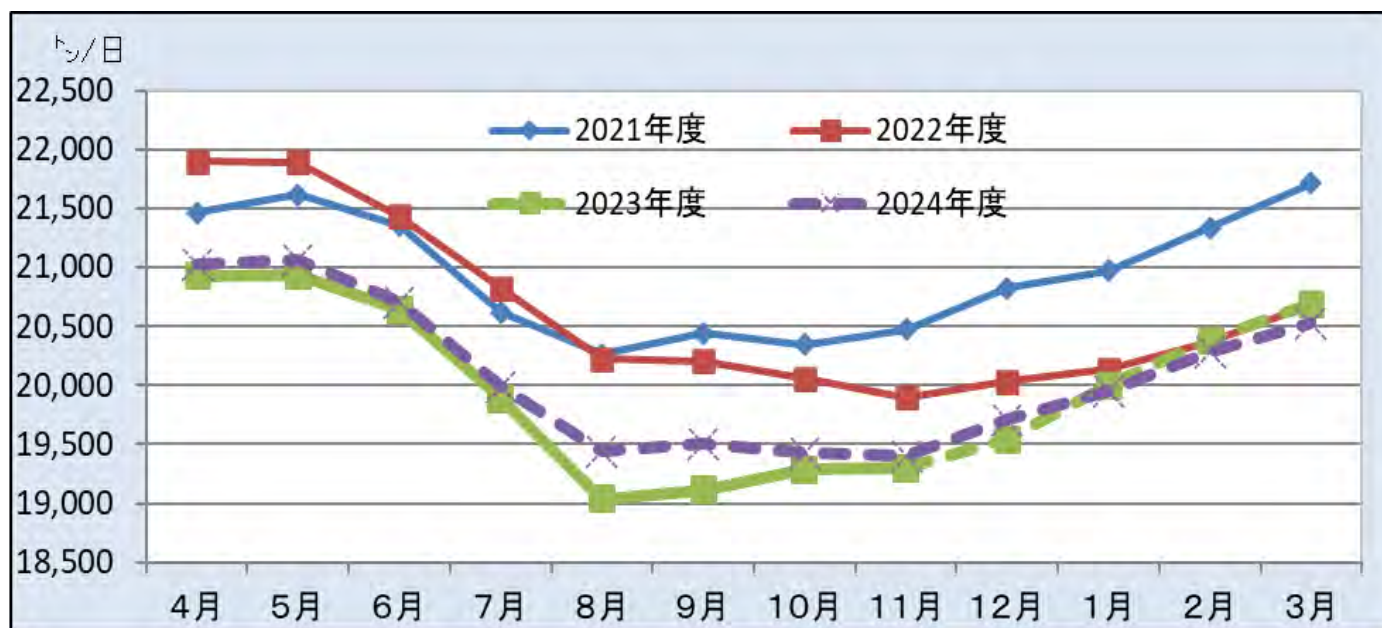
（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4月	631	100.4%	353	101.2%	278	99.5%
5月	653	100.6%	370	100.9%	283	100.2%
6月	621	100.3%	359	100.8%	262	99.7%
7月	620	100.5%	365	101.9%	254	98.6%
8月	603	102.1%	357	104.1%	246	99.4%
9月	585	102.0%	344	103.4%	241	100.1%
10月	602	100.8%	350	102.2%	252	98.8%
11月	582	100.5%	336	101.7%	246	99.0%
12月	611	100.9%	352	102.3%	259	99.0%
1月	618	99.7%	355	100.9%	263	98.1%
2月	568	96.1%	324	97.3%	243	94.5%
3月	636	99.2%	361	100.5%	276	97.6%
第1四半期	1,905	100.5%	1,082	101.0%	823	99.8%
第2四半期	1,807	101.5%	1,066	103.1%	741	99.3%
第3四半期	1,796	100.7%	1,038	102.1%	758	98.9%
第4四半期	1,823	98.4%	1,040	99.6%	783	96.8%
上期	3,712	101.0%	2,148	102.0%	1,564	99.6%
下期	3,618	99.5%	2,078	100.8%	1,540	97.8%
年度計	7,330	100.3%	4,225	101.4%	3,105	98.7%

【2023年度生乳生産の見通し】 全国 7,311 千トン・前年比 97.1%、北海道 4,166 千トン・同 97.9%、都府県 3,145 千トン・同 95.9%の見通し。

【2024年度生乳生産の見通し】 全国 7,330 千トン・前年比 100.3%、北海道 4,225 千トン・同 101.4%、都府県 3,105 千トン・同 98.7%の見通し。都府県は3年連続の減産、全国、北海道は3年ぶりの増産となる見込み。

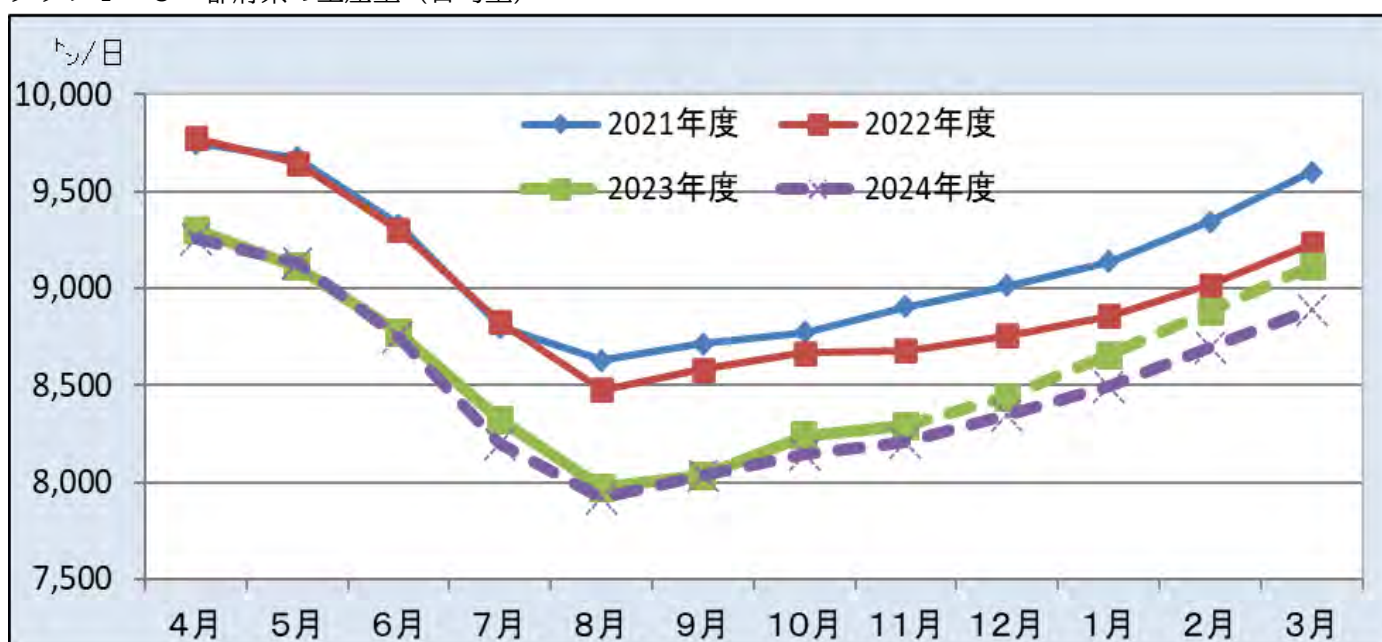
グラフ１－１：全国の生産量（日均量）



グラフ１－２：北海道の生産量（日均量）

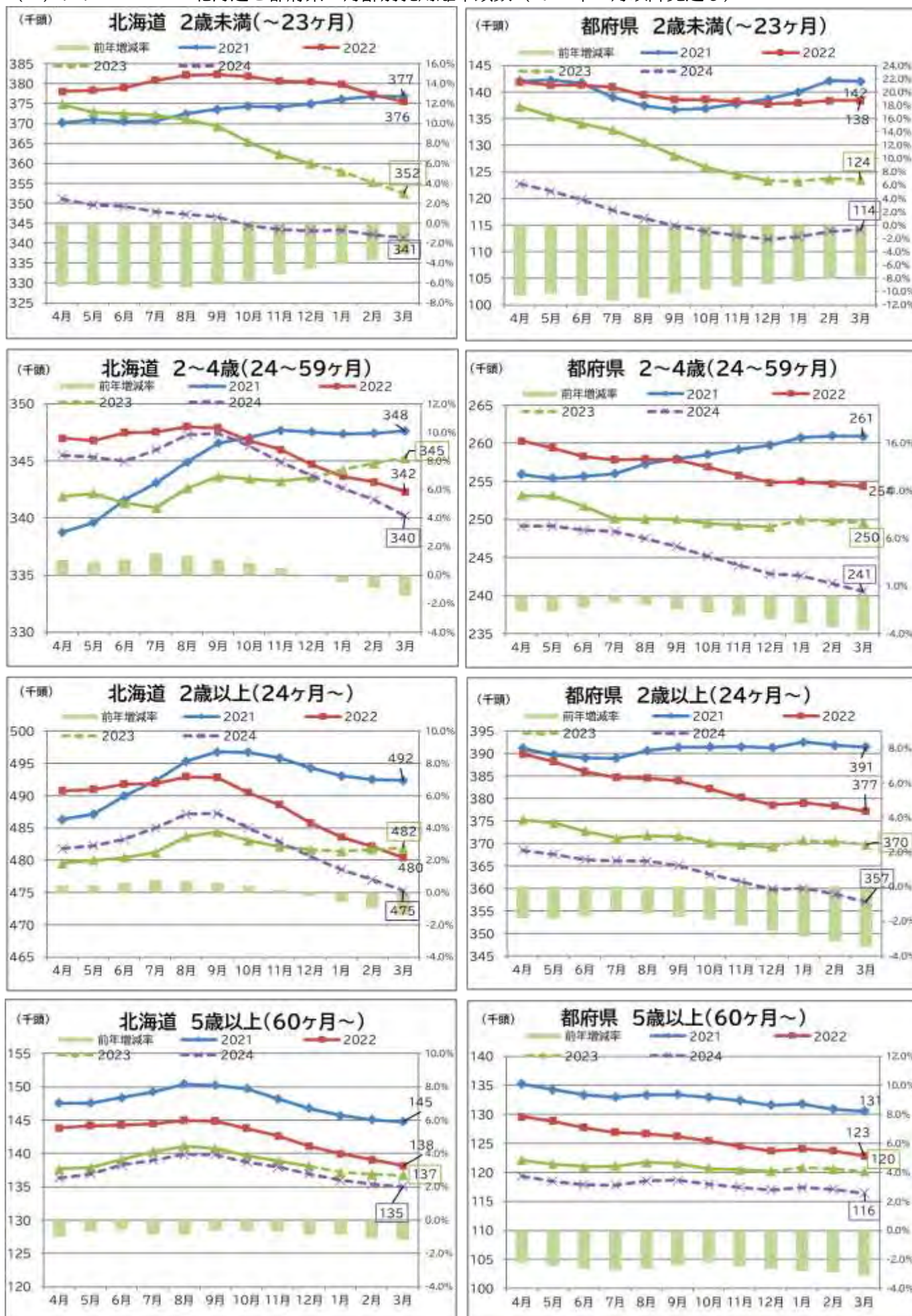


グラフ１－３：都府県の生産量（日均量）

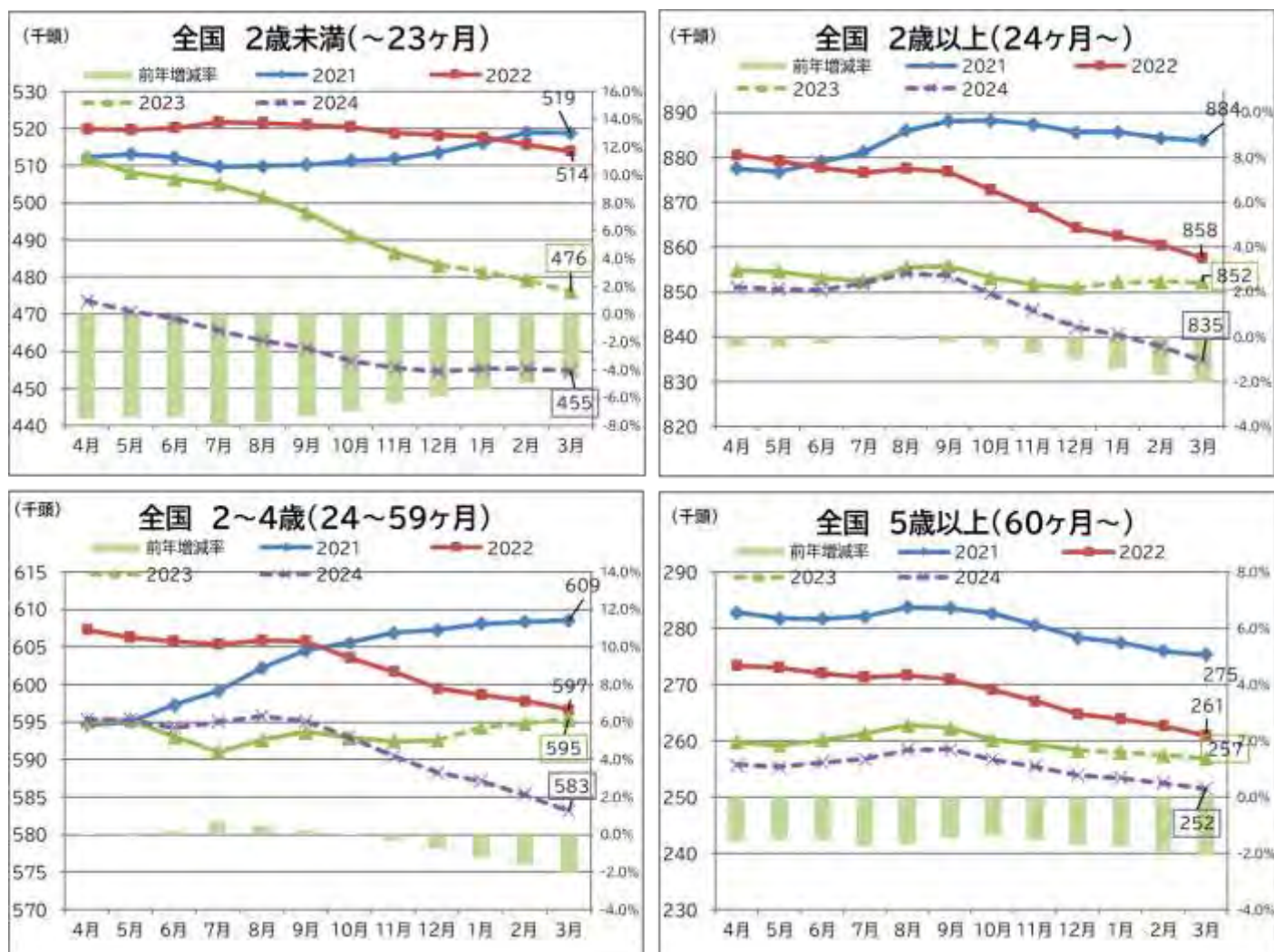


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2024年1月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2024年1月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2023年11月まで実績）



【2024年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数(3月末時点)は、北海道で約11千頭、都府県で約10千頭減少する見通し。乳用雌牛出生頭数(4-11月累計)は、北海道は前年比91.8%、都府県は同84.0%、全国では89.8%と前年よりも大きく減少している。
- ・搾乳牛となる2歳以上頭数(3月末時点)は、北海道で約7千頭、都府県で約13千頭減少する見通し。北海道では12月以降に2023年度を下回る予測となっているが、年間平均では100.1%と横ばいと見通される。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1：2023年度の牛乳等生産量（網掛け：実績）

(千kl)

	牛乳類		牛乳								加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳			
			学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外											
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比						
	4月	370	96.9%	252	96.8%	27	101.3%	226	96.2%	23	95.0%	203	96.4%	12	115.3%	20	92.5%	86	96.3%	83
5月	392	98.0%	268	97.5%	35	101.3%	233	96.9%	22	90.0%	211	97.7%	12	113.1%	21	94.1%	91	98.6%	86	94.0%
6月	387	96.6%	266	96.7%	37	96.0%	228	96.8%	19	88.4%	209	97.6%	11	108.0%	20	93.4%	91	96.0%	86	95.0%
7月	396	99.0%	267	98.6%	22	101.0%	244	98.4%	21	95.5%	223	98.7%	11	106.2%	22	94.8%	98	100.1%	87	94.9%
8月	386	97.9%	249	95.2%	6	90.6%	243	95.3%	22	86.2%	221	96.3%	11	104.7%	21	94.9%	104	105.1%	84	92.7%
9月	398	98.4%	270	97.3%	35	102.3%	235	96.6%	23	90.7%	213	97.2%	12	110.8%	21	94.9%	96	101.0%	85	96.3%
10月	399	98.1%	272	96.8%	36	101.0%	236	96.1%	25	87.8%	211	97.3%	13	110.9%	20	91.7%	94	102.2%	83	94.9%
11月	371	97.6%	255	98.2%	34	97.1%	221	98.4%	25	91.7%	196	99.3%	13	104.9%	18	91.8%	84	96.3%	78	96.2%
12月	356	98.1%	245	98.7%	29	102.4%	216	98.2%	24	95.6%	192	98.5%	14	106.1%	17	89.2%	80	97.3%	76	94.9%
1月	357	97.8%	246	98.2%	29	98.8%	217	98.1%	22	96.4%	195	98.3%	13	103.6%	18	89.4%	80	97.6%	80	95.9%
2月	348	102.0%	242	102.1%	34	99.7%	208	102.5%	21	106.0%	187	102.1%	12	111.6%	17	94.4%	77	102.4%	80	102.7%
3月	363	97.5%	246	97.4%	22	95.6%	224	97.6%	24	96.0%	199	97.8%	13	107.4%	18	88.5%	87	98.4%	85	99.1%
第1四半期	1,149	97.2%	786	97.0%	99	99.2%	687	96.6%	64	91.2%	623	97.2%	34	112.2%	60	93.3%	268	97.0%	255	93.8%
第2四半期	1,180	98.4%	785	97.1%	63	100.6%	722	96.8%	65	90.6%	657	97.4%	34	107.2%	64	94.8%	298	102.1%	256	94.6%
第3四半期	1,126	98.0%	772	97.8%	99	100.0%	673	97.5%	75	91.5%	598	98.3%	40	107.2%	55	90.9%	259	98.7%	237	95.3%
第4四半期	1,068	99.0%	734	99.2%	85	98.3%	649	99.3%	67	99.1%	582	99.3%	38	107.4%	53	90.6%	243	99.3%	246	99.2%
上期	2,330	97.8%	1,572	97.0%	162	99.8%	1,410	96.7%	130	90.9%	1,280	97.3%	68	109.7%	124	94.1%	566	99.6%	511	94.2%
下期	2,194	98.5%	1,506	98.5%	184	99.2%	1,322	98.4%	142	95.0%	1,180	98.8%	78	107.3%	108	90.8%	502	99.0%	483	97.2%
年度計	4,524	98.1%	3,078	97.7%	346	99.5%	2,732	97.5%	272	93.0%	2,460	98.0%	146	108.4%	232	92.5%	1,068	99.3%	994	95.7%

表3-2：2024年度の牛乳等生産量（網掛け：実績 白色：見通し）

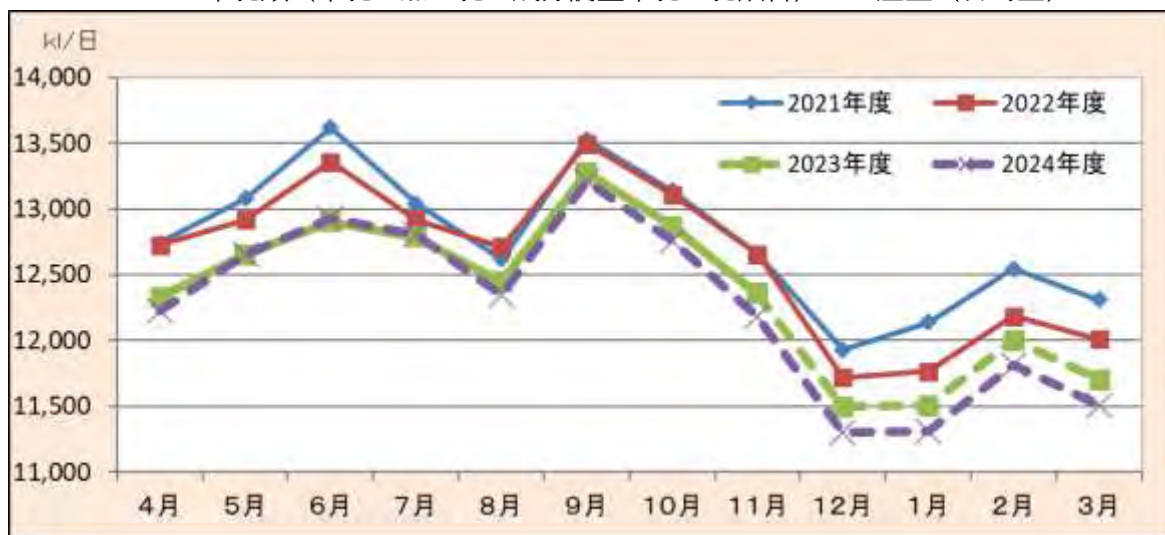
(千kl)

	牛乳類		牛乳										加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
			学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外											
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比					
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比			
4月	367	99.1%	249	98.6%	27	101.9%	222	98.3%	23	100.5%	199	98.0%	12	105.4%	18	91.4%	87	101.5%	85	102.3%
5月	392	100.0%	268	99.8%	36	103.2%	232	99.3%	22	100.5%	209	99.2%	13	107.0%	19	93.0%	93	101.3%	87	101.5%
6月	388	100.2%	264	99.6%	36	97.6%	228	99.9%	20	105.4%	208	99.4%	12	107.0%	19	95.2%	93	102.1%	86	100.1%
7月	397	100.2%	266	99.7%	24	108.3%	242	98.9%	21	100.8%	221	98.7%	12	111.0%	21	95.9%	99	101.4%	86	99.1%
8月	383	99.2%	250	100.3%	6	96.3%	244	100.4%	22	100.4%	222	100.4%	12	105.2%	20	95.5%	101	96.7%	83	98.0%
9月	396	99.5%	269	99.5%	33	94.5%	236	100.3%	24	105.9%	212	99.7%	12	103.1%	19	93.5%	96	100.3%	83	97.6%
10月	395	99.1%	271	99.5%	37	101.8%	234	99.2%	26	102.3%	208	98.8%	13	99.5%	18	93.1%	94	99.2%	83	99.4%
11月	365	98.6%	252	98.9%	34	101.3%	218	98.5%	26	102.1%	192	98.1%	14	101.8%	16	89.9%	84	99.0%	77	98.5%
12月	350	98.3%	241	98.5%	28	97.4%	213	98.7%	24	100.6%	189	98.4%	14	101.8%	16	89.2%	79	98.8%	74	98.5%
1月	351	98.3%	243	98.6%	29	99.5%	214	98.5%	22	100.0%	192	98.3%	13	101.9%	16	89.5%	79	98.9%	79	98.6%
2月	331	95.0%	231	95.3%	32	95.1%	199	95.3%	21	97.0%	178	95.1%	12	98.3%	15	86.7%	73	95.5%	76	95.3%
3月	357	98.3%	242	98.5%	22	99.1%	220	98.5%	24	99.4%	196	98.3%	13	101.8%	16	89.6%	86	99.0%	84	98.7%
第1四半期	1,147	99.8%	781	99.4%	100	100.7%	682	99.2%	66	102.0%	616	98.9%	37	106.4%	56	93.2%	273	101.6%	258	101.3%
第2四半期	1,176	99.6%	784	99.8%	63	99.6%	721	99.8%	67	102.4%	654	99.6%	36	106.3%	60	95.0%	296	99.4%	251	98.2%
第3四半期	1,111	98.7%	764	99.0%	99	100.4%	665	98.8%	76	101.7%	589	98.5%	41	101.0%	50	90.8%	256	99.0%	234	98.8%
第4四半期	1,038	97.2%	716	97.5%	83	97.6%	633	97.5%	67	98.9%	566	97.3%	38	100.7%	47	88.6%	238	97.8%	240	97.5%
上期	2,323	99.7%	1,565	99.6%	163	100.3%	1,403	99.5%	133	102.2%	1,270	99.2%	73	106.4%	117	94.1%	569	100.4%	510	99.7%
下期	2,150	98.0%	1,480	98.3%	182	99.1%	1,298	98.1%	143	100.3%	1,155	97.9%	79	100.9%	97	89.8%	494	98.5%	474	98.2%
年度計	4,472	98.9%	3,045	98.9%	345	99.7%	2,700	98.9%	275	101.2%	2,425	98.6%	151	103.4%	213	92.1%	1,063	99.5%	983	99.0%

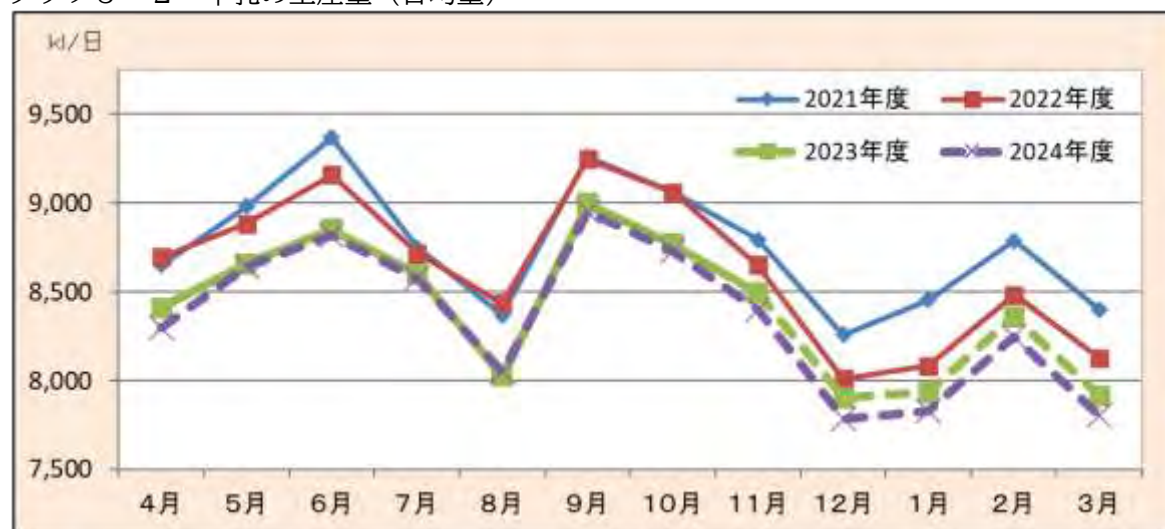
【2023年度の牛乳等生産量の見通し】 「牛乳類」は4,524千kl・前年比98.1%。内訳として、「牛乳」3,078千kl・同97.7%、「加工乳」146千kl・同108.4%、「成分調整牛乳」232千kl・同92.5%、「乳飲料」1,068千kl・同99.3%。「はっ酵乳」は、994千kl・同95.7%の見通し。

【2024年度の牛乳等生産量の見通し】 「牛乳類」は4,472千kl・前年比98.9%。内訳として、「牛乳」3,045千kl・同98.9%、「加工乳」151千kl・同103.4%、「成分調整牛乳」213千kl・同92.1%、「乳飲料」1,063千kl・同99.5%。「はっ酵乳」は、983千kl・同99.0%の見通し。

グラフ 3-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



グラフ 3-2：牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3-3：学乳の生産量（日均量）



グラフ 3-4：学乳以外の生産量（日均量）



グラフ 3-5：業務用の生産量（日均量）



グラフ 3-6：業務用以外の生産量（日均量）



グラフ 3－7：加工乳の生産量（日均量）



グラフ 3－8：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3－9：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 3－10：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2023年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	628	95.6%	4	105.0%	624	95.5%	321	96.4%	303	94.6%	163	91.0%	39	103.1%	101	97.7%
5月	649	95.6%	4	106.5%	645	95.6%	339	97.0%	305	94.0%	166	92.7%	38	94.9%	101	96.0%
6月	619	96.3%	4	105.7%	615	96.3%	337	96.7%	278	95.7%	144	96.1%	36	93.3%	99	96.0%
7月	616	95.5%	4	97.8%	613	95.5%	339	96.7%	274	94.1%	134	92.7%	37	92.9%	103	96.3%
8月	590	94.1%	4	103.5%	586	94.1%	321	95.8%	265	92.1%	128	86.9%	35	92.3%	101	99.5%
9月	573	94.6%	4	97.5%	570	94.6%	340	97.5%	229	90.6%	92	78.4%	32	92.0%	105	104.2%
10月	598	96.1%	4	93.3%	594	96.2%	342	97.0%	252	95.1%	112	91.1%	34	97.0%	106	99.0%
11月	579	97.0%	4	99.6%	575	97.0%	318	98.0%	257	95.7%	117	93.3%	33	91.8%	106	99.9%
12月	606	97.5%	4	97.4%	602	97.5%	307	97.9%	295	97.2%	159	98.3%	35	90.5%	101	97.9%
1月	620	99.4%	4	99.1%	616	99.4%	312	97.6%	305	101.2%	175	106.5%	35	89.7%	95	97.0%
2月	591	103.6%	4	103.4%	587	103.6%	305	101.7%	282	105.8%	154	108.2%	33	100.2%	95	104.0%
3月	642	100.1%	4	99.9%	638	100.1%	312	97.1%	326	103.1%	183	107.0%	39	99.1%	105	98.3%
第1四半期	1,896	95.8%	12	105.7%	1,884	95.8%	997	96.7%	887	94.7%	473	93.1%	112	97.0%	301	96.6%
第2四半期	1,780	94.7%	11	99.6%	1,768	94.7%	1,000	96.7%	768	92.3%	354	86.5%	105	92.4%	309	99.9%
第3四半期	1,783	96.9%	11	96.8%	1,771	96.9%	967	97.6%	804	96.0%	389	94.6%	103	93.0%	313	98.9%
第4四半期	1,853	100.9%	12	100.8%	1,841	100.9%	928	98.7%	913	103.3%	512	107.2%	106	96.1%	295	99.6%
上期	3,676	95.3%	23	102.6%	3,652	95.3%	1,998	96.7%	1,655	93.6%	828	90.2%	217	94.8%	610	98.2%
下期	3,635	98.9%	23	98.8%	3,612	98.9%	1,895	98.2%	1,717	99.7%	900	101.4%	209	94.6%	608	99.3%
年度計	7,311	97.1%	46	100.7%	7,265	97.0%	3,893	97.4%	3,372	96.6%	1,728	95.7%	426	94.7%	1,218	98.8%

表4-2：2024年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績 白色：見通し）

（千トン）

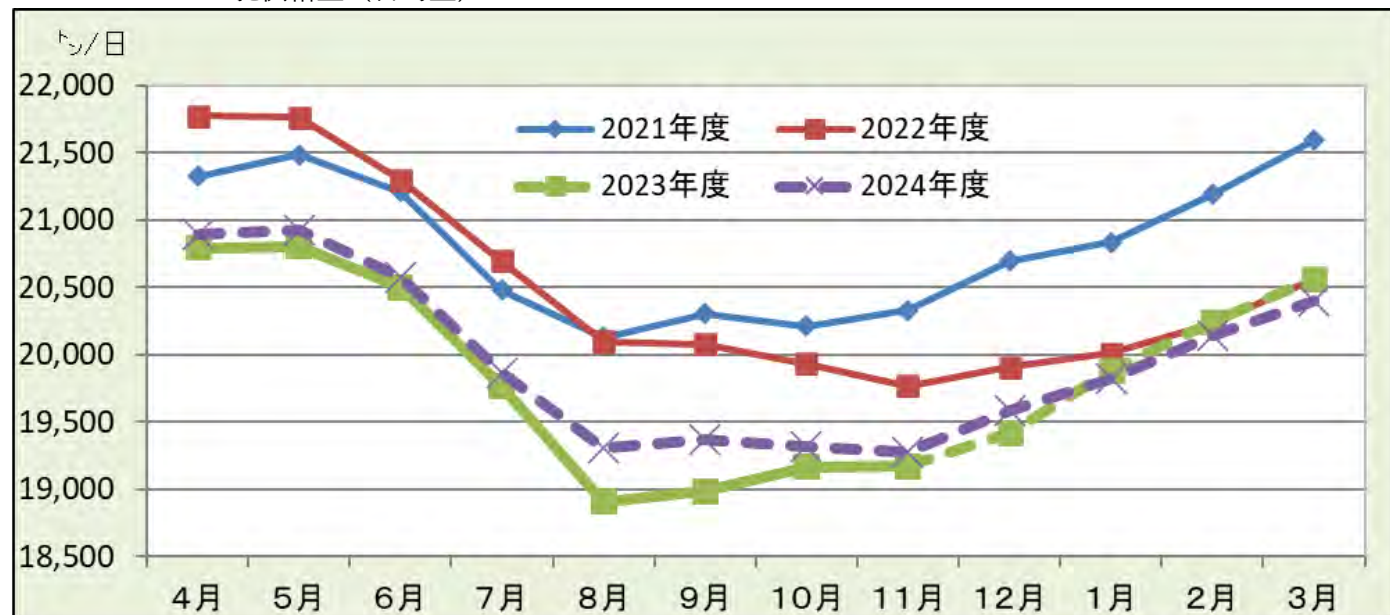
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 （認定ベース）		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	631	100.4%	4	100.4%	627	100.5%	316	98.6%	310	102.4%	171	105.1%	39	100.0%	100	99.1%
5月	653	100.6%	4	100.6%	649	100.6%	338	99.6%	311	101.7%	172	103.3%	38	100.0%	101	99.8%
6月	621	100.3%	4	100.3%	617	100.3%	335	99.5%	282	101.3%	148	102.7%	36	100.0%	98	99.8%
7月	620	100.5%	4	100.4%	616	100.5%	337	99.6%	278	101.7%	139	103.5%	37	100.0%	102	99.9%
8月	603	102.1%	4	101.9%	599	102.1%	320	99.7%	278	105.1%	143	111.3%	35	100.0%	100	99.0%
9月	585	102.0%	4	101.9%	581	102.0%	337	99.1%	244	106.3%	109	119.1%	32	100.0%	102	97.2%
10月	602	100.8%	4	100.6%	599	100.8%	339	99.1%	260	103.0%	121	107.9%	34	100.0%	104	98.7%
11月	582	100.5%	4	100.2%	578	100.5%	313	98.4%	265	103.2%	127	108.2%	33	100.0%	105	98.7%
12月	611	100.9%	4	100.6%	607	100.9%	301	98.0%	307	103.8%	172	107.9%	35	100.0%	99	98.7%
1月	618	99.7%	4	99.5%	615	99.7%	306	98.1%	309	101.4%	181	103.0%	35	100.0%	94	98.8%
2月	568	96.1%	4	95.9%	564	96.1%	289	94.8%	275	97.4%	152	98.9%	32	96.6%	91	95.4%
3月	636	99.2%	4	99.0%	632	99.2%	306	98.1%	327	100.3%	185	101.2%	39	100.0%	103	98.7%
第1四半期	1,905	100.5%	12	100.4%	1,893	100.5%	990	99.2%	903	101.9%	491	103.8%	112	100.0%	300	99.5%
第2四半期	1,807	101.5%	12	101.4%	1,796	101.5%	995	99.5%	801	104.2%	391	110.3%	105	100.0%	305	98.7%
第3四半期	1,796	100.7%	11	100.5%	1,784	100.7%	953	98.5%	831	103.4%	420	108.0%	103	100.0%	309	98.7%
第4四半期	1,823	98.4%	11	98.1%	1,811	98.4%	901	97.0%	910	99.8%	517	101.1%	105	98.9%	288	97.6%
上期	3,712	101.0%	24	100.9%	3,688	101.0%	1,985	99.3%	1,704	103.0%	882	106.6%	217	100.0%	605	99.1%
下期	3,618	99.5%	23	99.3%	3,595	99.5%	1,854	97.8%	1,742	101.4%	937	104.1%	208	99.5%	597	98.2%
年度計	7,330	100.3%	47	100.1%	7,284	100.3%	3,838	98.6%	3,445	102.2%	1,819	105.3%	425	99.7%	1,201	98.6%

【2023年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」は7,265千トン・前年比97.0%、「飲用等向処理量」は3,893千トン・同97.4%、「乳製品向処理量」は3,372千トン・同96.6%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」は426千トン・同94.7%、「生クリーム等向」は1,218千トン・同98.8%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,728千トン・同95.7%となる見通し。

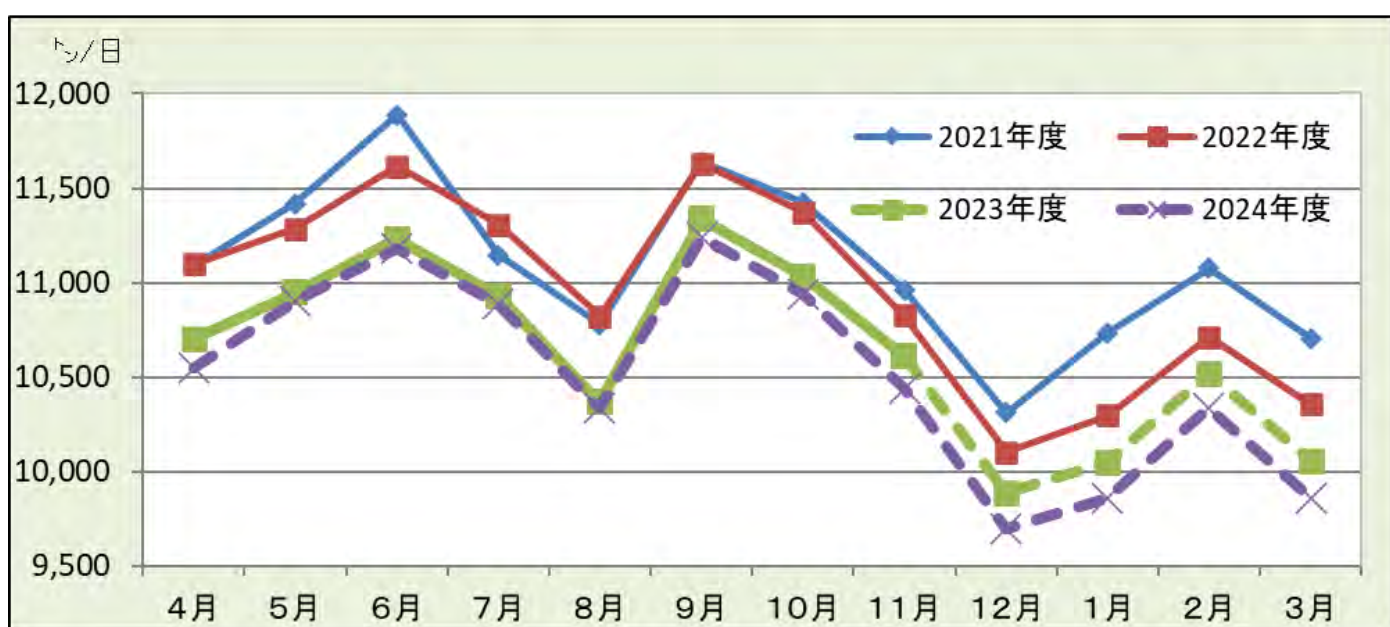
【2024年度の用途別処理量の見通し】「生乳供給量」は7,330千トン・前年比100.3%、「飲用等向処理量」は3,838千トン・同98.6%、「乳製品向処理量」は3,445千トン・同102.2%と見込んだ。乳製品向のうち、「チーズ向」は425千トン・同99.7%、「生クリーム等向」は1,201千トン・同98.6%、「脱脂粉乳・バター等向」は、1,819千トン・同105.3%と前年を上回る見通し。

※生クリーム等向は、乳製品乳価引き上げとこれまでの需要減少の相関を基に12月以降の需要減少を推定して予測。

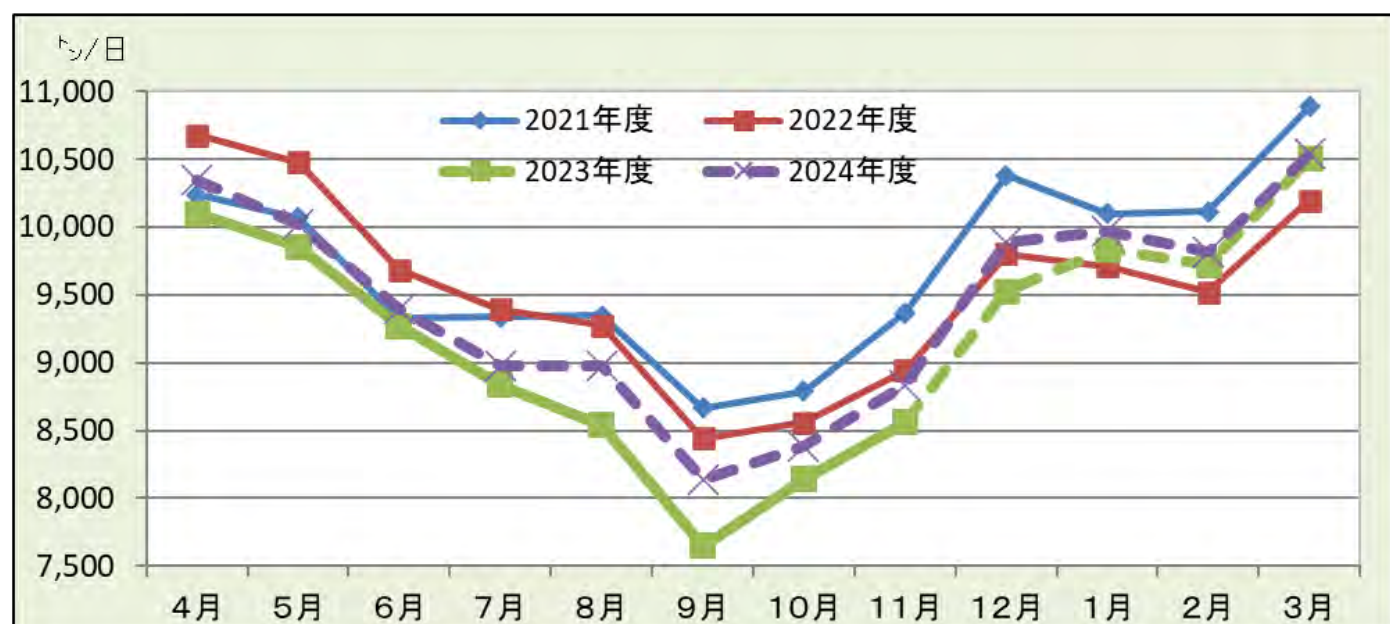
グラフ４－１：生乳供給量（日均量）



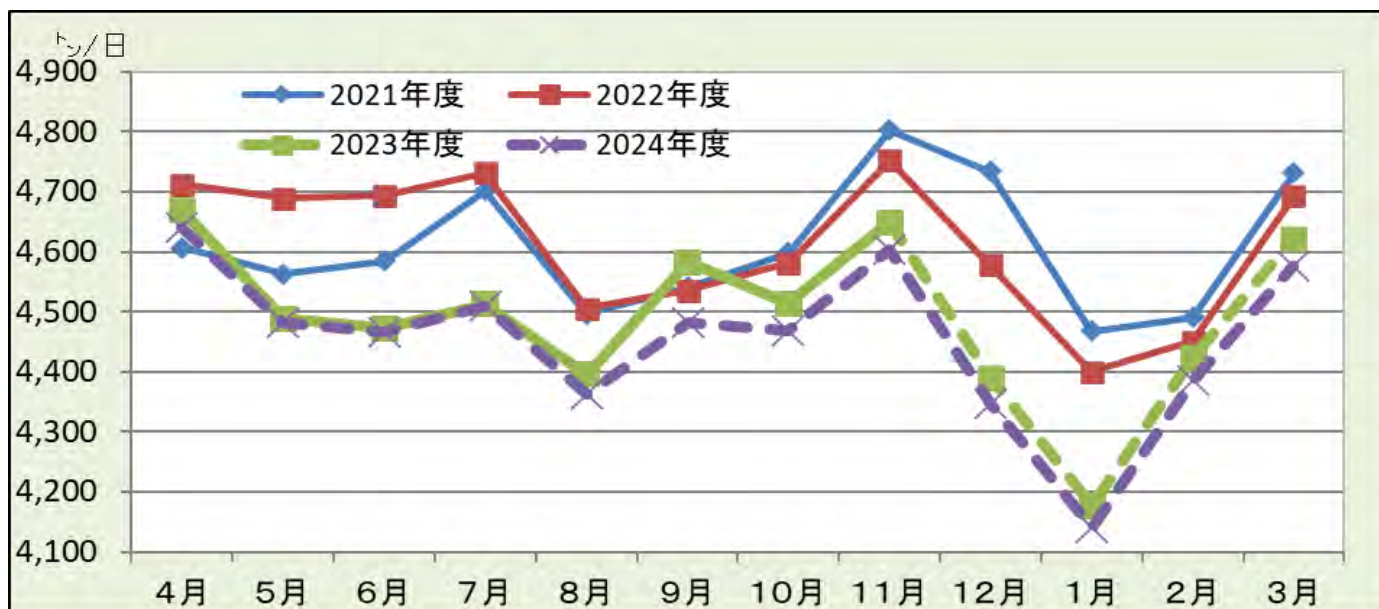
グラフ４－２：飲用等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－３：乳製品等向生乳処理量（日均量）



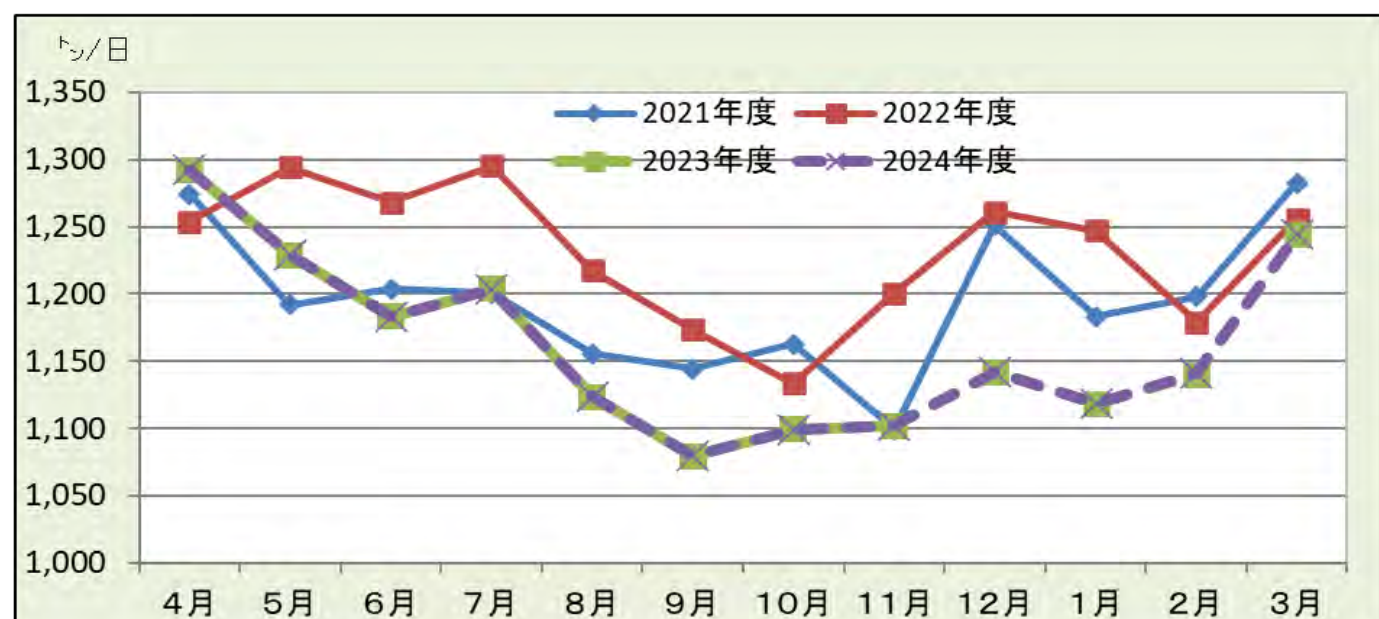
グラフ４－４：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ４－５：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－６：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1：2023年度の脱脂粉乳の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				※ 対策除いた 場合の月数	推定出回り量		
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比		月数	D	前年比
第 1 四半期	64.4	65.9%	39.7	92.2%	0.3	4.7	69.1	66.4%	5.7	6.7	35.2	95.7%		
第 2 四半期	69.1	66.4%	29.2	85.7%	0.1	-10.1	59.0	63.6%	4.9	5.7	39.4	86.9%		
第 3 四半期	59.0	63.6%	34.3	93.9%	0.0	-5.4	53.7	65.1%	4.4	5.2	39.7	84.5%		
第 4 四半期	53.7	65.1%	43.6	107.2%	0.8	13.4	67.1	104.2%	5.5	6.5	30.9	52.7%		
上期	64.4	65.9%	68.9	89.3%	0.4	-5.3	59.0	63.6%	4.9	5.7	74.6	90.8%		
下期	59.0	63.6%	77.9	100.9%	0.8	8.0	67.1	104.2%	5.5	6.5	70.7	66.8%		
年度計	64.4	65.9%	146.8	95.1%	1.2	2.7	67.1	104.2%	5.5	6.5	145.3	77.3%		

※配分済対策分を除く過不足(B+C-D)： 24.1

※対策分除く推定出回り量(D)： 123.9 92.7%

※対策分12-3月見込： 16.6 (4-11月実績) 21.4

50.5	78.5%	4.2	4.9	161.9	86.2%
------	-------	-----	-----	-------	-------

※在庫対策（うちJミルク対策2022年度繰り越し分
+2023年度新規分、うちホクレン新規対策）を考慮

※各対策分を考慮した出回り量

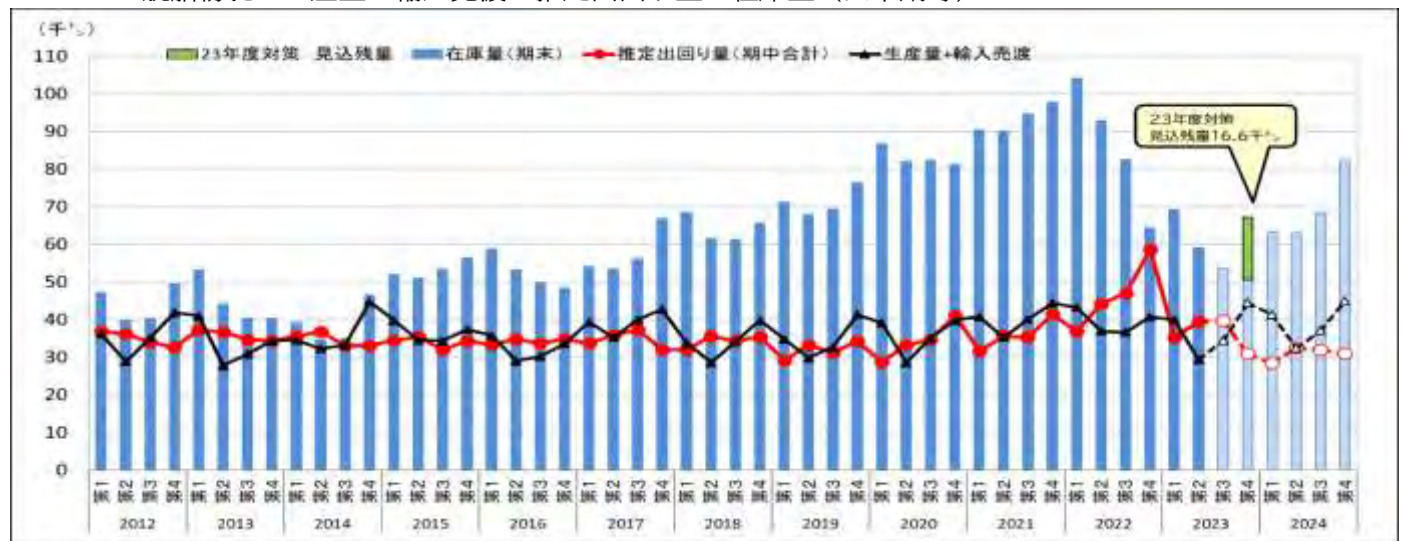
表5-2：2024年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

（千トン）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				※ 対策除いた 場合の月数	推定出回り量		
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比		月数	D	前年比
第 1 四半期	50.5	104.2%	41.2	103.8%	0.0	12.8	63.3	91.5%	6.1	6.1	28.4	80.8%		
第 2 四半期	63.3	91.5%	32.3	110.4%	0.0	-0.2	63.1	106.9%	6.1	6.1	32.5	82.4%		
第 3 四半期	63.1	106.9%	37.1	108.0%	0.0	5.2	68.3	127.2%	6.6	6.6	32.0	80.4%		
第 4 四半期	68.3	127.2%	44.1	101.1%	0.8	14.0	82.2	122.6%	8.0	8.0	30.9	99.8%		
上期	50.5	104.2%	73.5	106.6%	0.1	12.6	63.1	106.9%	6.1	6.1	60.9	81.6%		
下期	63.1	106.9%	81.1	104.2%	0.8	19.1	82.2	122.6%	8.0	8.0	62.8	88.9%		
年度計	50.5	104.2%	154.6	105.3%	0.9	31.7	82.2	122.6%	8.0	8.0	123.8	85.2%		

※2023年度の対策分除く推定出回り量との比較（前年比） 99.9%

グラフ5：脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2023年度の脱脂粉乳需給の見通し】「生産量」146.8千トン・前年比95.1%、「推定出回り量」145.3千トン・同77.3%（2022年度と2023年度の通常出回り量（対策除く需要）との比較では92.7%）となる見通し。「輸入売渡し」1.2千トンと仮定すると、対策分を除く単年度ギャップは24.1千トンと見込む。なお、2022年度の業界協調の在庫削減対策の繰り越し分と2023年度の同対策分、北海道（ホクレン）の需要確保対策の合計で年間38.0千トンの削減を見込んでおり（約21.4千トンは4-11月実績に含まれている）、これを考慮すると年度末在庫量は50.5千トン・同78.5%。

【2024年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量は154.6千トン・前年比105.3%、推定出回り量は123.8千トン・同85.2%（2023年度の対策除く比較では同99.9%）となる見通し。輸入売渡しは0.9千トンと仮定すると、単年度ギャップは31.7千トンと見込まれ、年度末在庫量は82.2千トン・同122.6%となる見通し。

※：2024年度輸入売渡しは2023年度輸入枠（0.75千トン）から推定。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

表5'-1：2023年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数	D	前年比
第1四半期	28.8	72.9%	19.0	90.7%	3.7	1.0	29.9	71.5%	4.1	4.1	21.6	104.4%
第2四半期	29.9	71.5%	13.5	82.0%	2.7	-3.9	26.0	66.6%	3.6	3.6	20.1	93.6%
第3四半期	26.0	66.6%	14.9	94.3%	2.4	-6.1	19.9	64.4%	2.7	2.7	23.4	88.8%
第4四半期	19.9	64.4%	21.3	107.2%	3.6	3.3	23.2	80.5%	3.2	3.2	21.6	88.7%
上期	28.8	72.9%	32.6	86.9%	6.4	-2.8	26.0	66.6%	3.6	3.6	41.7	98.9%
下期	26.0	66.6%	36.2	101.5%	6.0	-2.8	23.2	80.5%	3.2	3.2	45.0	88.8%
年度計	28.8	72.9%	68.8	94.0%	12.3	-5.6	23.2	80.5%	3.2	3.2	86.7	93.4%

※2022年度の対策分除く推定出回り量との比較(前年比)

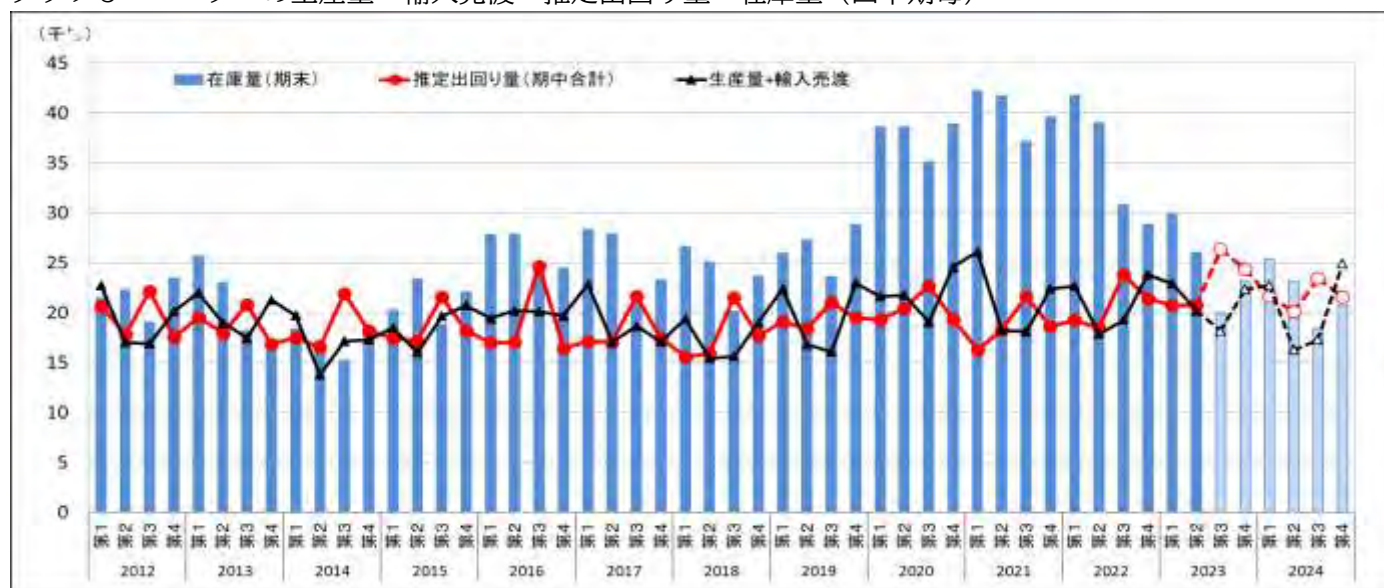
98.3%

表5'-2：2024年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			A+B+C-D	前年比	月数	※ 対策除いた 場合の月数	D	前年比
第1四半期	23.2	80.5%	19.7	103.8%	3.4	2.2	25.4	85.0%	3.6	3.6	20.9	96.6%
第2四半期	25.4	85.0%	14.9	110.2%	2.1	-2.2	23.2	89.2%	3.3	3.3	19.2	95.5%
第3四半期	23.2	89.2%	16.1	108.0%	2.1	-4.8	18.4	92.5%	2.6	2.6	23.0	98.2%
第4四半期	18.4	92.5%	21.6	101.2%	2.1	2.4	20.7	89.4%	3.0	3.0	21.2	98.5%
上期	23.2	80.5%	34.7	106.4%	5.4	0.0	23.2	89.2%	3.3	3.3	40.1	96.1%
下期	23.2	89.2%	37.6	104.0%	4.1	-2.5	20.7	89.4%	3.0	3.0	44.2	98.3%
年度計	23.2	80.5%	72.3	105.1%	9.6	-2.4	20.7	89.4%	3.0	3.0	84.3	97.2%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡し・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2023年度のバター需給の見通し】「生産量」68.8千トン・前年比94.0%、「推定出回り量」86.7千トン・同93.4%（2022年度の通常出回り量(対策除く需要)との比較では98.3%）となる見通し。「輸入売渡し」12.3千トンと仮定すると、単年度ギャップは▲5.6千トン、「年度末在庫量」23.3千トン・同80.5%と見込む。

【2024年度のバター需給の見通し】「生産量」72.3千トン・前年比105.1%、「推定出回り量」84.3千トン・同97.2%。「輸入売渡し」9.6千トンと仮定(※)すると、単年度ギャップは▲2.4千トン、「年度末在庫量」20.7千トン・同89.4%と見込む。

※推定出回り量は、乳製品乳価引き上げとこれまでの需要減少の相関を基に12月以降の需要を推定して予測。なお、製品価格改定の影響は、本見通しよりも更に需要(出回り量)を押し下げる可能性がある。

※2023年度輸入売渡しは、2023年度輸入枠残量から推定、2024年度輸入売渡しは、2023年度当初の輸入枠から推定した。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については、加味していない。

6. 都府県の生乳需給の動向

表6-1：2023年度の都府県の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 （道外移出量）D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	95.1%	275	96.5%	6	103.4%	-4	31	100.6%	27	86.7%
5月	281	94.4%	292	96.9%	5	98.0%	-17	38	102.5%	21	77.6%
6月	261	94.2%	289	96.6%	5	100.0%	-33	47	108.8%	13	86.6%
7月	256	94.3%	289	97.1%	5	97.5%	-38	52	107.5%	14	82.1%
8月	245	94.0%	274	95.9%	5	94.8%	-33	49	101.5%	15	83.2%
9月	239	93.6%	291	97.7%	5	96.4%	-56	61	109.7%	5	54.4%
10月	254	95.1%	294	97.2%	5	98.5%	-45	53	105.0%	8	82.8%
11月	247	95.5%	272	97.7%	5	97.7%	-31	40	107.4%	10	80.4%
12月	260	96.3%	265	98.5%	6	100.0%	-12	36	101.4%	24	81.6%
1月	267	97.8%	270	98.0%	5	100.0%	-8	33	98.3%	24	95.1%
2月	256	102.0%	263	102.0%	5	100.0%	-12	32	102.1%	20	103.0%
3月	281	98.8%	268	97.2%	6	100.0%	7	30	97.8%	37	110.5%
第1四半期	819	94.6%	857	96.7%	16	100.5%	-54	116	104.4%	62	83.3%
第2四半期	741	94.0%	853	96.9%	14	96.2%	-127	161	106.4%	34	77.2%
第3四半期	761	95.7%	831	97.8%	17	98.8%	-87	129	104.7%	42	81.6%
第4四半期	803	99.4%	802	99.0%	15	100.0%	-13	95	99.4%	82	103.6%
上期	1,560	94.3%	1,710	96.8%	30	98.4%	-181	277	105.6%	96	81.0%
下期	1,564	97.6%	1,633	98.4%	32	99.4%	-100	225	102.4%	124	94.9%
年度計	3,124	95.9%	3,343	97.6%	62	98.9%	-281	502	104.1%	220	88.3%

表6-2：2024年度の都府県の需給（網掛け：実績 白色：見通し）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 （道外移出量）D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	276	99.5%	272	98.9%	6	100.0%	-2	30	98.0%	28	104.1%
5月	281	100.2%	292	99.8%	5	100.0%	-16	38	99.2%	22	104.8%
6月	260	99.7%	288	99.5%	5	100.0%	-33	45	97.5%	13	96.1%
7月	253	98.6%	288	99.6%	5	100.0%	-40	55	106.7%	15	107.4%
8月	244	99.4%	272	99.5%	5	100.0%	-33	52	106.3%	18	119.0%
9月	239	100.1%	288	98.9%	5	100.0%	-53	61	101.0%	8	182.7%
10月	251	98.8%	292	99.4%	5	100.0%	-46	56	104.2%	10	113.4%
11月	245	99.0%	269	99.0%	5	100.0%	-30	42	104.5%	12	123.0%
12月	257	99.0%	259	97.8%	6	100.0%	-8	35	98.4%	27	111.0%
1月	262	98.1%	264	97.9%	5	100.0%	-7	32	98.3%	25	100.6%
2月	242	94.5%	249	94.6%	5	100.0%	-12	31	95.1%	19	93.4%
3月	274	97.6%	262	97.8%	6	100.0%	6	30	98.3%	36	96.2%
第1四半期	817	99.8%	852	99.4%	16	100.0%	-50	114	98.2%	64	102.6%
第2四半期	736	99.3%	848	99.3%	14	100.0%	-126	168	104.4%	42	122.9%
第3四半期	753	98.9%	821	98.7%	17	100.0%	-85	133	102.7%	48	114.2%
第4四半期	777	96.8%	776	96.8%	15	100.0%	-13	93	97.2%	79	96.8%
上期	1,553	99.6%	1,700	99.4%	30	100.0%	-176	282	101.8%	106	109.8%
下期	1,530	97.8%	1,596	97.8%	32	100.0%	-98	226	100.4%	128	102.8%
年度計	3,084	98.7%	3,296	98.6%	62	100.0%	-274	508	101.2%	233	105.8%

【2023年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,124千トン・前年比95.9%、「飲用等向処理量」は3,343千トン・同97.6%となる見通し。北海道から都府県への「移入必要量（道外移出量）」は、502千トン・同104.1%となる見通し。

【2024年度都府県の生乳需給の見通し】「生乳供給量」は3,084千トン・前年比98.7%、「飲用等向処理量」は3,296千トン・同98.6%となる見通し。北海道から都府県への「移入必要量（道外移出量）」は、508千トン・同101.2%と2023年度を上回る見通し。

7. 生乳需給の動向

表7-1：脱脂粉乳ベースの年度別生乳需給（網掛け：実績）

脱脂粉乳 ベース	生乳供給量		生乳需要量						生乳供給量と 生乳需要量 の差 C=A-B	輸入売渡し (生乳換算) D	輸入売渡し 後の過不足 (生乳換算) E=C+D	※参考 在庫削減対策を 考慮しない場合の 過不足 E+対策分(生乳換算)
	A	前年比	B	前年比	飲用等向		乳製品向					
					前年比	前年比						
2015年度	7,352	101.1%	7,427	99.1%	4,012	101.2%	3,415	96.8%	▲ 75	200	124	124
2016年度	7,291	99.2%	7,455	100.4%	4,053	101.0%	3,402	99.6%	▲ 164	63	▲ 101	▲ 101
2017年度	7,241	99.3%	7,454	100.0%	4,073	100.5%	3,381	99.4%	▲ 213	440	227	227
2018年度	7,234	99.9%	7,447	99.9%	4,083	100.2%	3,365	99.5%	▲ 213	198	▲ 15	▲ 15
2019年度	7,318	101.2%	7,285	97.8%	4,075	99.8%	3,210	95.4%	33	99	132	132
2020年度	7,389	101.0%	7,355	101.0%	4,086	100.3%	3,269	101.8%	34	24	58	274
2021年度	7,597	102.8%	7,412	100.8%	4,050	99.1%	3,362	102.8%	185	8	193	404
2022年度	7,486	98.5%	7,878	106.3%	3,997	98.7%	3,881	115.4%	▲ 392	2	▲ 390	245
2023年度 予測	7,265	97.0%	7,247	92.0%	3,893	97.4%	3,354	86.4%	18	14	32	284
2024年度 予測	7,284	100.3%	6,921	95.5%	3,838	98.6%	3,082	91.9%	363	10	373	373

表7-2：バターベースの年度別生乳需給（網掛け：実績）

バター ベース	生乳供給量		生乳需要量						生乳供給量と 生乳需要量 の差 C=A-B	輸入売渡し (生乳換算) D	輸入売渡し 後の過不足 (生乳換算) E=C+D	※参考 在庫削減対策を 考慮しない場合の 過不足 E+対策分(生乳換算)
			飲用等向			乳製品向						
	A	前年比	B	前年比	前年比	前年比						
2015年度	7,352	101.1%	7,572	99.8%	4,012	101.2%	3,560	98.2%	▲ 220	324	104	104
2016年度	7,291	99.2%	7,526	99.4%	4,053	101.0%	3,472	97.5%	▲ 234	294	59	59
2017年度	7,241	99.3%	7,508	99.8%	4,073	100.5%	3,435	98.9%	▲ 267	236	▲ 31	▲ 31
2018年度	7,234	99.9%	7,683	102.3%	4,083	100.2%	3,600	104.8%	▲ 448	458	10	10
2019年度	7,318	101.2%	7,715	100.4%	4,075	99.8%	3,640	101.1%	▲ 397	523	126	126
2020年度	7,389	101.0%	7,480	96.9%	4,086	100.3%	3,394	93.2%	▲ 91	331	240	240
2021年度	7,597	102.8%	7,790	104.1%	4,050	99.1%	3,740	110.2%	▲ 193	210	18	230
2022年度	7,486	98.5%	7,973	102.4%	3,997	98.7%	3,976	106.3%	▲ 487	222	▲ 265	▲ 150
2023年度 予測	7,265	97.0%	7,716	96.8%	3,893	97.4%	3,823	96.1%	▲ 451	310	▲ 142	▲ 142
2024年度 予測	7,284	100.3%	7,586	98.3%	3,838	98.6%	3,748	98.0%	▲ 303	241	▲ 62	▲ 62

前頁までの見通しを踏まえた 2024 年度の「生乳需要量」見通しは、

- ① 脱脂粉乳ベース（脱脂粉乳需要量を満たすための生乳必要量）で 6,921 千㍓
- ② バターベース（バター需要量を満たすための生乳必要量）で 7,586 千㍓

2024 年度の「生乳供給量」見通し 7,284 千㍓と比較では、単年度での需給見通し（輸入売渡し除く）は、

- ① 脱脂粉乳ベースで+363 千㍓。
- ② バターベースで▲303 千㍓。

8. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

2024 年度の生乳生産量は、生産者団体による生乳生産抑制の見直しを受け、2023 年度を上回る水準を見込んでいるが、前年の夏場の猛暑を受け、乳牛への暑熱ダメージや受胎のズレなどの影響が懸念される状況にある。一方、様々な物価高騰に伴う家計負担の増嵩は、食料品を含む消費全般に影を落としているが、牛乳乳製品の需要も同様に低調に推移すると見通しており、需給調整弁となる脱脂粉乳・バターの製造量は前年を上回ると見込まれる。

バターの需給については、23 年 12 月の乳価引き上げに伴う製品価格改定等により家庭用需要の減少が見込まれるが、外国人訪日客や国内の人流が着実に増加しているため、業務用需要は堅調に推移すると見通される。需要と供給の単年度ギャップは▲2 千トン程度と試算されることから、今後も国家貿易の適切な運用を含めて製品の安定供給に努める必要がある。一方、脱脂粉乳は在庫削減対策等の効果により 2023 年度末には在庫量が5万トン台と試算されるものの、はっ酵乳の需要低迷は継続すると見通される。単年度ギャップは対策を講じなければ+32 千トンと在庫量は再び積み増すと想定され、両品目の需給のアンバランスは 2024 年度も継続する可能性が高い。

なお、本予測における生乳生産量は、北海道農協酪農・畜産対策本部委員会（道酪畜対）における目標数量と比較するとやや低い（約▲6 万トン 脱脂粉乳換算 5.7 千トン、バター換算 2.7 千トン相当）値となっており、目標に向けた推進状況や、気温等の変動により都府県の生乳生産量が上振れした場合、バターはより安定的な供給が図られる一方、脱脂粉乳の在庫量は更に積み上がる試算となる。

上記課題はあるものの、今後の継続的な取り組みとしては、市場動向やニーズ、情勢等を適切に把握し、高付加価値商品の開発や海外への輸出を通じた新たな需要の創出、牛乳乳製品の持つ栄養的・機能的な価値の訴求、消費者や小売流通業界等へ実効性の高い理解醸成活動など、牛乳乳製品全般の需要拡大に資する取り組みを業界内外で一体的に推進する必要がある。とりわけ、脱脂粉乳については、在庫量の適正化のため、無脂固形分（SNF）を使用した製品の需要喚起に継続的に取り組むことで在庫量積み増しの抑制を図るとともに、翌年度も国の事業が措置されたことも踏まえて、2024 年度も引き続き全国の生産者・乳業者で協調した在庫削減対策に努めることが重要である。

他方、中長期的な懸念として、食料安全保障の重要性が生活者に共有化されつつあるなか、酪農乳業が将来に向けて、安定的かつ持続的に発展するためには、乳の価値を高め産業規模の維持・拡大を図るとともに、その生乳需要に応じた安定的な生乳生産や市場への供給が不可欠であるため、酪農乳業の発展・成長を見据えて次の事項について取り組む必要がある。

●中長期を見据えた需給課題への対応について

(1) 安定的な需給環境維持のための対応・取り組み

酪農乳業は、栄養価の高い牛乳乳製品を消費者へ安定的に届け健康への貢献や食料の安定的な供給を目指した国内自給率の向上などの社会的責任を担っており、業界としても未来に向けて持続可能な産業として発展させていく必要がある。

しかし、生乳需給はこれまでひっ迫と緩和を繰り返し、その都度、生乳生産量の増減を基本に調整を余儀なくされてきた。近年では社会情勢の変化が複合的に重なり、需要が減退したことで乳製品在庫の積み増しや処理不可能乳の発生懸念など、生乳需給の課題が表面化した。

他方、台風等の自然災害のリスクや北海道と都府県、都府県内でも東西における生産量のアンバランスと需給調整負担の偏在化、物流の 2024 年問題等により、全国的な需給調整機能の強化に向けた対応も欠かせない状況となっている。

このような課題の影響を最小限に抑制し、酪農乳業界として安定的な産業の発展や生産基盤の維持・拡大に向けて、需給緩和時・ひっ迫時に迅速かつ柔軟な対応をするため、業界内で生産者・乳業者が共同した新たな仕組みの構築に向け着手しており、今後議論を詰めていく必要がある。

(2) 生乳生産基盤の維持・強化に向けて

飼料価格の高止まりや子牛（副産物）価格の下落等、生乳生産費の増嵩による酪農生産者の厳しい環境は依然として続いており、2024 年度以降生乳輸送に係る費用の上昇も想定される。

こうした厳しい情勢等から、経営を中止（離農）する生産者は昨年夏の夏場以降に急激に増加していることに加え、本見通しで示しているとおり（P2-3）、これまでの生乳生産抑制の取り組みもあって2024年度下期から徐々に搾乳牛頭数が前年を下回って推移し、2025 年度にはさらに減少すると予測され（2 歳以上全国：約 99.3%、2 歳未満全国：約 93.4%）、更なる生産基盤の縮小が懸念される。

今後は、(1) で述べた安定的な需給環境維持のための新たな仕組みの構築を図りつつ、中長期的な酪農経営の安定や国産牛乳乳製品の安定供給を見据えた対応が重要である。国の事業（R5 補正）が措置された長命連産性を重視した牛群構成への転換や 2023 年度の記録的な猛暑を踏まえた暑熱対策等を図るとともに、今後議論が進められる「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）」の方向性や生乳生産量（搾乳牛頭数）の増加には、種付けから搾乳開始まで約3年の期間を要することを踏まえ、酪農乳業界で将来を見据えた計画的な生産体制の構築に向けて検討を重ねる必要がある。